

**製品名: UFD2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19611**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	UBE4B
別名	UBE4B; HDNB1; KIAA0684; UFD2; Ubiquitin conjugation factor E4 B; Homozygously deleted in neuroblastoma 1; Ubiquitin fusion degradation protein 2
遺伝子 ID	10277.0
SwissProt ID	O95155
免疫原	ヒト UFD2 の内部領域から得られた合成ペプチド。

**背景**

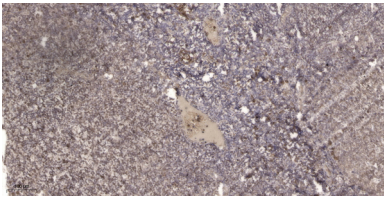
ユビキチンによるタンパク質の修飾は、異常なタンパク質や寿命の短いタンパク質を分解対象とする重要な細胞機構です。ユビキチン

ン化には、少なくとも3種類の酵素、すなわちユビキチン活性化酵素 (E1)、ユビキチン結合酵素 (E2)、そしてユビキチンタンパク質リガーゼ (E3) が関与します。この遺伝子は、多重ユビキチン鎖の組み立てに関与する追加の結合因子 E4 をコードしています。この遺伝子は、神経芽腫の腫瘍抑制遺伝子の中でも最有力な候補遺伝子です。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写産物バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2008年7月],機能: 既成ユビキチン複合体のユビキチン残基に結合し、E1、E2、E3 と連携してユビキチン鎖の組み立てを触媒する。 ,PTM: アポトーシス時にカスパーゼによってタンパク質分解的に切断される。カスパーゼ 6 およびグランザイム B によって Asp-123 が効率的に切断される。カスパーゼ 3 およびカスパーゼ 7 によって Asp-109 が約 10 倍低い効率で切断される。 ,類似性: ユビキチン結合因子 E4 ファミリーに属する。 ,類似性: 1つのUボックスドメインを含む。 ,サブユニット: VCP と相互作用する。 ,組織特異性: 卵巣、精巣、心臓、骨格筋で最も高い発現を示す。結腸、胸腺、末梢血白血球では低い発現を示す。肺と脾臓ではほとんど検出されません。

## 研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解;

## 画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°Cで一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45分)。